



# 取扱説明書

## ポータブル動噴 A S 5 1 E M R - 2 0

ご使用前に必ずお読みください  
いつまでも大切に保管してください

# はじめに

このたびは、本製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行なっていただくために、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただいて十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの冊子をご活用ください。

お読みになったあと必ず大切に保管し、本製品を末永く使用できますようにご活用ください。なお、より良い製品をご提供するために製品と本書の内容が一部異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。

本製品についてお気づきの点がございましたら最寄の取扱店、にお問い合わせください。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- 紛失した場合は最寄の取扱店にてお買い求めください。
- 本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

## ■注意事項について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

- 危険** …もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う事になるもの。
- 警告** …その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。
- 注意** …その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。
- 注意** …その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性があるもの。

自分が使用するつもりで！

## ■機械を他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある **⚠**（安全注意マーク）印のついている警告ラベルも一枚ずつ説明してあげてください。

親切心が仇にならないように機械と一緒に取扱説明書・安全作業説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を体得してから作業するように指導してください。

とくに禁止事項については念を入れて説明してください。



※「注意」この取扱説明書には、国際単位を表示しております。下記の換算数値をよく読んでご理解の上ご使用ください。

| 量       | 新計量法対応表示                                             | 換算                                                       | 従来の表示                                | 備考 |
|---------|------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|--------------------------------------|----|
| 面積      | [m <sup>2</sup> ] (平方メートル)                           | 10000[m <sup>2</sup> ]<br>=1[ha]=100[a]<br>=10 反歩=3000 坪 | [a] (アール)<br>[ha] (ヘクタール)<br>坪、町歩、反歩 | ※① |
| 回転速度    | [s <sup>-1</sup> ] (回秒)<br>[min <sup>-1</sup> ] (毎分) | 1[min <sup>-1</sup> ]=1[rpm]                             | [rpm]                                | ※② |
| 力       | [N] (ニュートン)                                          | 9.8[N]=1[kgf]                                            | [kgf] (重量キログラム)                      |    |
| 力のモーメント | [N・m] (ニュートンメートル)                                    | 9.8[N・m]=1[kgf・m]                                        | [kgf・m]                              |    |
| 圧力      | [Pa] (パスカル)<br>[N/m <sup>2</sup> ] (ニュートン毎平方メートル)    | 0.98[MPa]=10[kgf/cm <sup>2</sup> ]<br>9.8[Pa]=1[mmHg]    | [kgf・m]<br>[mmHg]                    |    |
| 工率・動力   | [W] (ワット)                                            | 735.5[W]=1[PS]<br>9.8[W]=1[kgf・m/s]                      | [PS]<br>[kgf・m/s]                    |    |

※注意事項 ①土地面積については、[a], [ha]を使用することがあります。

②単位時間における回転数については、「回転数」ではなく、「回転速度」と表示します。

# 目次

|                                                                                                 |    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1.  安全に作業するために | 3  |
| 本機の手扱い注意                                                                                        | 4  |
| 作業の注意                                                                                           | 4  |
| ご使用後の注意                                                                                         | 5  |
| ポジティブリスト制度について                                                                                  | 6  |
| 2. 各部のなまえと付属品                                                                                   | 7  |
| 付属品のご確認                                                                                         | 7  |
| 警告・注意ラベル                                                                                        | 7  |
| 各部のなまえ、各部のはたらき                                                                                  | 8  |
| 3. 取扱い及び操作のしかた                                                                                  | 10 |
| 運転準備                                                                                            | 10 |
| 運転                                                                                              | 11 |
| 停止                                                                                              | 12 |
| 4. 洗浄・整備・格納について                                                                                 | 13 |
| 洗浄と整備                                                                                           | 13 |
| 水抜きと格納                                                                                          | 14 |
| 故障診断とその処置                                                                                       | 15 |
| 5. 仕様                                                                                           | 16 |
| 6. サービスと保証について                                                                                  | 17 |

# 1. ⚠️ 安全に作業するために

## (1) はじめに

ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよく読んで正しい安全作業を行ってください。  
「安全に作業していただくために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですがこれ以外にも本文の中で ⚠️ 危険 ・ ⚠️ 警告 ・ ⚠️ 注意 ・ 注意 としてそのつど取り上げています。」

## (2) 作業前にこれだけは守りましょう。

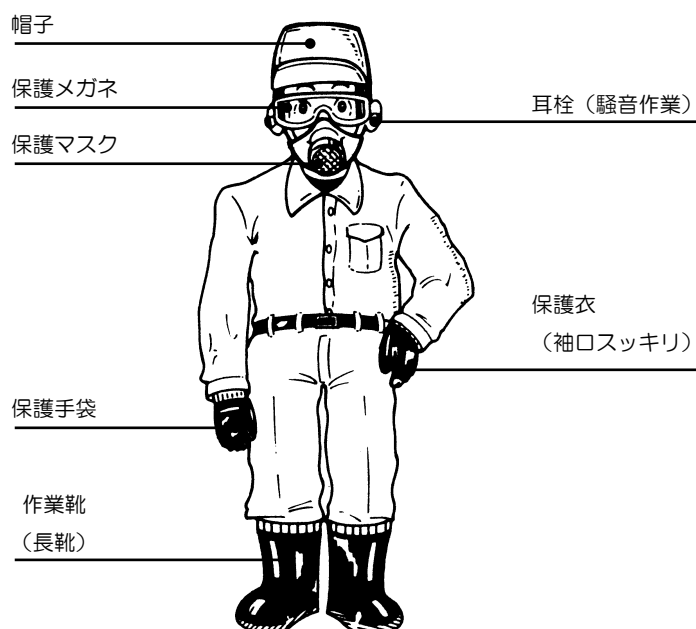
■ **こんな人は、作業してはいけません。心身ともに健康な状態で作業してください。**

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 16歳未満の人
- 未熟練者
- 作業者以外



■ **服装は、作業に適していますか？**

- 作業に適し、体にあったものを着用してください。



- ・保護具はつねに正常な機能を有する様、点検・整備を行い、正しく使用してください。
- ・騒音が大きい場合はイヤマフまたは耳栓を着用してください。
- ・作業領域には作業者以外の人を近づけないでください。

## 本機の取扱い注意

### 使用用途

- 1) 一般畑作物の病害虫に対する薬液散布
- 2) 果樹一般の病害虫に対する薬液散布
- 3) ハウス栽培作物の病害虫に対する薬液散布
- 4) 花栽培作物の病害虫に対する薬液散布
- 5) 牧舎・鶏舎等への消毒液・殺虫液の散布
- 6) 庭木・盆栽・芝生の病害虫に対する薬液散布及び散水
- 7) 都市衛生用消毒液・殺虫液の散布
- 8) 公園等の花壇・街路樹の病害虫に対する薬液散布
- 9) 雑草防除に対する除草剤の散布
- 10) 野菜・根菜の洗浄及び散水

自動車などによる運搬時は機械が転倒しないような処置をしておきます

### 作業の注意

#### 薬剤の取扱いについて

- ① 薬剤の取扱説明書は良く読んでください。  
使用する薬剤のラベルを良く読み、使用方法、使用上の注意を良く知っておいてください。
- ② 薬剤の被曝の恐れのない服装で取り扱ってください。
- ③ 薬剤は必要な量だけ準備してください。
- ④ 散布する場所で調査してください。  
風向きに注意して環境汚染の恐れのないところで行ってください。
- ⑤ タンクなどにあらかじめ調査して運搬しないでください。こぼれると環境汚染につながります。
- ⑥ 飲み物や食べ物と同じ場所に保管したり一緒に運搬しないでください。運搬する時は袋が切れないように気をつけてください。
- ⑦ 薬剤は残らないよう調査してください。
- ⑧ 残った薬剤は、だれが見ても何であるか判別できる密閉した容器・袋に入れ、他のものと隔離して無用の人が取り出せないように保管してください。

絶対に飲み物・食べ物の容器には保管しないでください。

- ⑨ 空き袋・空き缶・空き瓶は害のない方法で処理してください。



**注意**

- 反当散布量や薬剤の種類をまちがえると薬害をおこします。

#### 作業は適した時期に行います。

- ① 風向きや圃場周囲の状況を考えて行ってください。  
風の強い時は漂流飛散の恐れがあるので作業は避けてください。
- ② 作業は気温の高い時間帯を避けてください。
- ③ 身体の調子の悪い時は行わないでください。
- ④ 散布直後の圃場には入らないでください。



**警告**

- 薬剤散布は風上から風下に向かって作業しましょう。風下からの作業では薬剤を浴びることになります。
- 火災の恐れがありますので引火性の強い薬剤は使用しないでください。
- 動力噴霧機は重量物です。運搬時には、腰を痛めないように十分注意してください。

## 燃料について

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、冷えてから、行ってください。こぼした時は完全に拭き取り、乾かしてください。燃料に引火して火災の原因となります。
- 燃料補給タンクから 3m 以上離れて始動してください。



- 燃料の補給や手入れをする時は火気を近づけないでください。

## エンジンについて

- 換気の悪い場所での使用は避けてください。
- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラ、シリンダーフィンなどに手を触れるとヤケドします。
- エンジンの運転中、スパークプラグにはさわらないでください。
- 設置した際に、排気方向は塞がないでください。排気ガスや蒸気熱により一酸化炭素中毒や火災の原因になります。
- トラックのあおりがマフラ排気口より高い場合にはあおりを倒してください。



- 室内では運転しないでください。一酸化炭素中毒になります。
- エンジンの排気ガスは、吸わないように注意してください。

## ポンプについて

- ノズルから吐出する薬剤は高圧です。人に向かって吐出しないでください。
- エンジンを始動するときは、ノズルのバルブが確実に閉じていることを確認します。
- 運転をするときは、吸水ホース・余水ホースがおどらないようにヒモ等で絞っておきます。

## ご使用後の注意

- 使用する薬液は、薬液水槽内に残さないように散布してください。
- 薬液水槽内に残った残液は、きれいに取り去り、元の容器に入れて幼児の手のとどかない所に保管してください。機械についた薬剤などもきれいに取り去ってください。錆の発生や故障の原因になります。
- 損傷箇所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗品はすべて当社指定の純正部品をご使用ください。
- 保管は湿気の少ない場所に、チリやゴミが付着しないようにしてください。
- 保管時は、燃料を全て抜き取ってください。
- 運転後のエンジンは高温になっているので、素手でさわらないでください。やけどをします。

## ポジティブリスト制度について

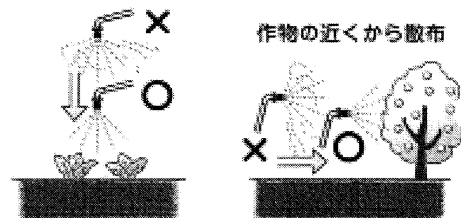
食品衛生法の農薬残留基準にポジティブリスト制度が導入されます。今まで残留基準値が決められていなかった農産物に一律の厳しい基準が設けられます。定められた基準を超えて農薬が残留する食品は販売等が禁止されるため、散布する薬剤が周りのほ場にドリフトしないよう、これまで以上に、ドリフト防止に気をつける必要があります。また、周辺ほ場へのドリフトが問題になるばかりではなく、ドリフトが周辺住民に迷惑をかけることもあります。さらに、湖沼などの水源へ混入すると環境破壊にもつながります。圏外へのドリフトを減らすことは様々な面から求められています。

### ポジティブリスト制度とは？

食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則禁止とする制度です。この一定量とは「人の健康を損なうおそれのない量として厚生労働大臣が定める量」として、原則0.01ppmとなっています。（いわゆる一律基準）

※散布しようとする作物以外に農薬がドリフトしないように細心の注意をして散布しましょう！

- 農薬散布時は必ず守りましょう。
  - ① 風の弱い時に散布します。
  - ② 散布の位置や方向に注意します。
  - ③ 適正なノズルを使い適正な圧力で散布します。
  - ④ 適正な量を散布します。
  - ⑤ 園地の端部では特に注意します。
  - ⑥ 薬剤タンクやホースをしっかりと洗浄します。

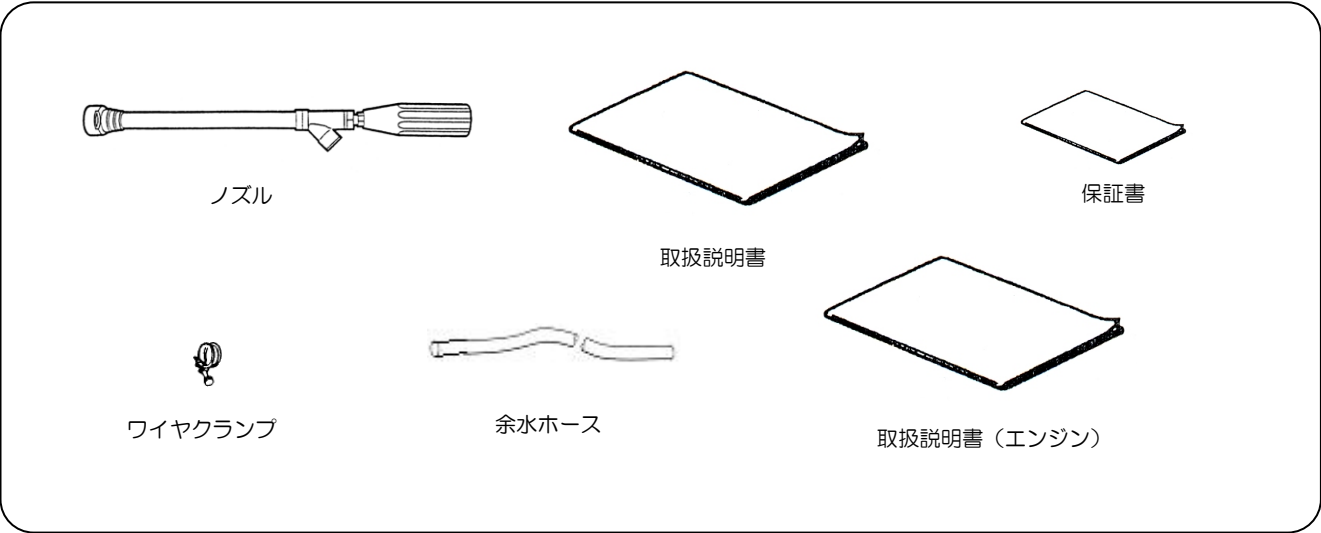




## 2. 各部のなまえと付属品

### 付属品のご確認

梱包箱を開けたら、まず付属品が揃っているかどうか、確認してください。万一、付属品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにお買い求めの販売店にお申し出ください。



| 部品番号   | 名称    | 個数 | 部品番号   | 名称          | 個数 |
|--------|-------|----|--------|-------------|----|
| 830048 | ノズル   | 1  | -      | 取扱説明書(エンジン) | 1  |
| 549769 | 余水ホース | 1  | 549353 | ワイヤクランプ     | 1  |
| 549710 | 取扱説明書 | 1  | -      | 保証書         | 1  |

### 警告・注意ラベル

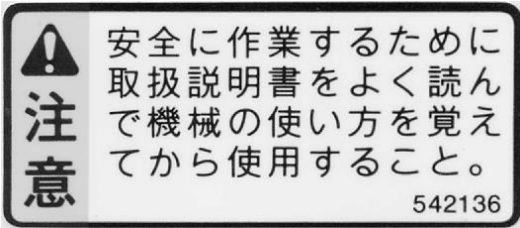
※本機には次のラベルが貼ってあります。よくお読みになって理解したうえで作業してください。



**注意**

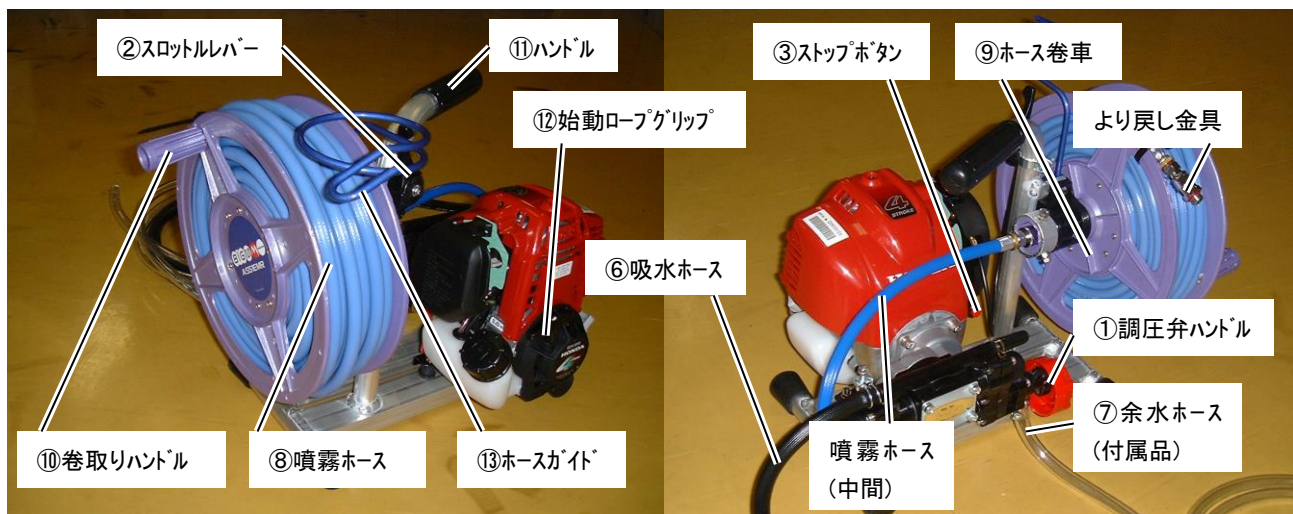
- いつも汚れや泥をとり、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したなら、新しい物と交換してください。
- 警告ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品を取外した部品と同じ場所に貼って

542136





## 各部のなまえ



## 各部のはたらき

### ①調圧弁ハンドル

ポンプの噴霧圧力は調圧弁ハンドルを回すことにより調整します。

#### 始動位置

エンジン始動時及びポンプ吸水時に合わせます。

#### 除草位置

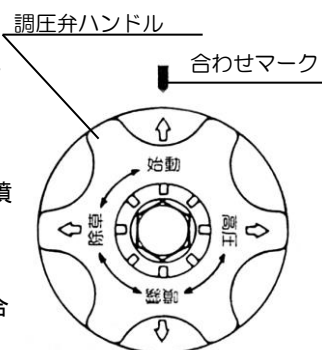
除草剤散布などの低圧で噴霧するときに合わせます。

#### 噴霧位置

通常の噴霧作業のときに合わせます。

#### 高圧位置

高圧噴霧作業や噴霧ホースを長くして使用するときや細かい霧の散布をするときに合わせます。



### ②スロットルレバー

エンジンの回転(ポンプの回転)を調整します。

#### 注意

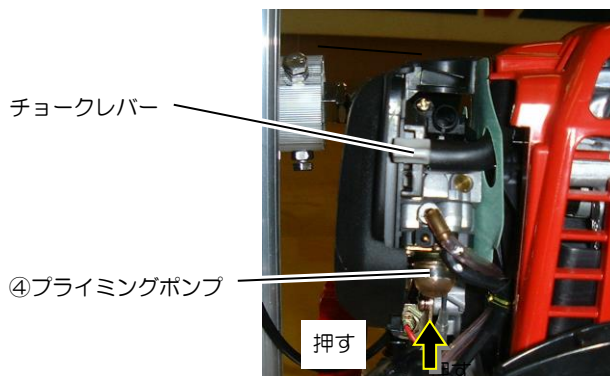
このポンプは遠心クラッチを使用しているため、クラッチがすべる低回転域で使用すると、クラッチの寿命が短くなる原因になります。(すべりによる異常振動がでる場合は調圧弁ハンドル位置・スロットルレバーとの組合せを調整します。)

### ③ストップボタン

押し続けるとエンジンが停止します。

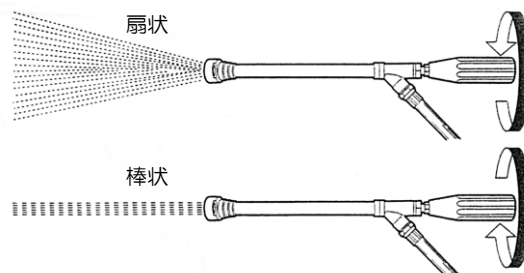
### ④プライミングポンプ

エンジンを始動するときに使用します。ポンピングすると気化器まで燃料が送られます。



### ⑤ノズル(付属品)

ニギリを右に回すと扇状になり戻すと棒状の霧になります。右に回しきるとノズルは閉止します。



## ⑥吸水ホース

薬液槽から薬液を吸込むためのホースです。

一端をポンプの吸水口に差し込み、付属のホースバンドにてしっかり締め付けてください。もう一端のストレーナ側を薬液槽につけてください。

※初回使用時(開梱時)、吸水ホースは製品に取付けた状態になっています。

## ⑦余水ホース(付属品)

ポンプ内の余った薬液を薬液槽に戻すためのホースです。(圧力と霧の状態により余水量は変化します)

余水口に差し込み付属のワイヤクランプで締め付けてください。

## ⑧噴霧ホース

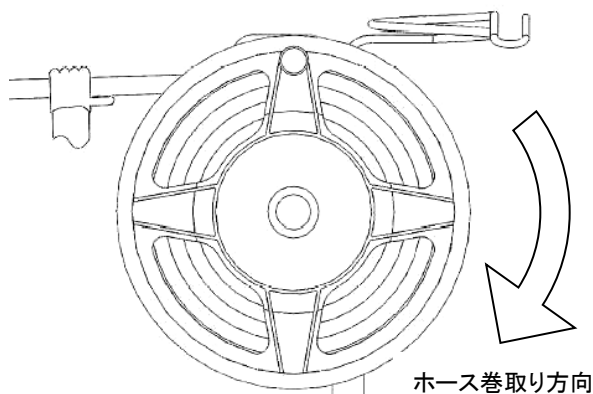
ポンプで加圧した薬液をノズルへ送るためのホースです。

## ⑨ホース巻車

噴霧ホースを巻取り、収納します。

### 注意

噴霧ホースは巻車ハンドルから見て右回しに巻き取ってください。左回しに巻取りますと、次回使用時、噴霧ホースがホースガイドからスムーズに引出せなくなることがあります。



## ⑩巻取りハンドル

ホース巻車に噴霧ホースを巻き取る際のハンドルです。

## ⑪ハンドル

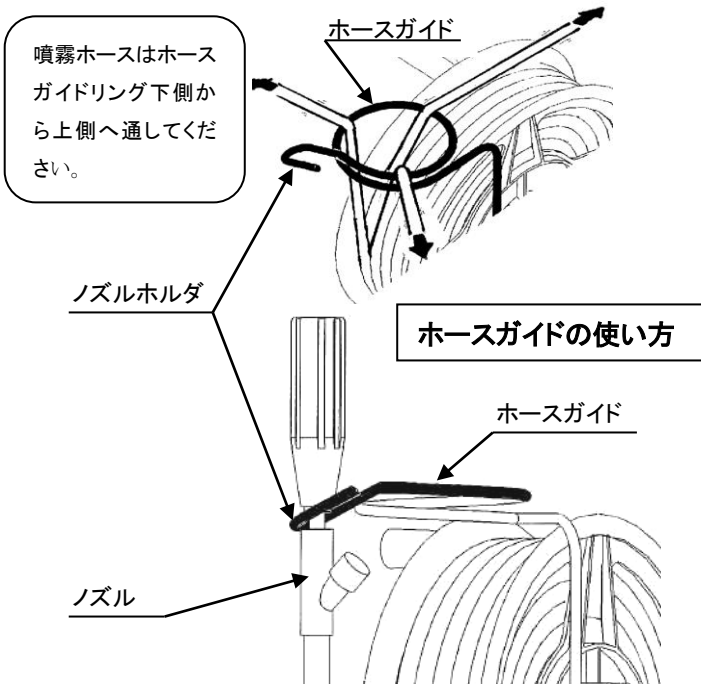
本機を持運ぶ際のハンドルです。

## ⑫始動ロープグリップ

エンジン始動時、始動ロープを引くためのグリップです。

## ⑬ホースガイド

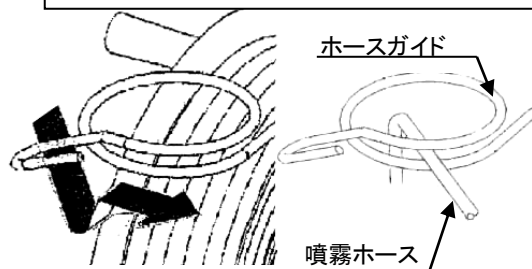
リング内側に噴霧ホースを通す事で、360度自在の方向に噴霧ホースを引出せます。



ホースガイドはノズルホルダとしてもご使用いただけます。

ホースガイドリング部先端のU字部にノズルをひっかけ、ノズルホルダとしてもご使用ください。また、ノズルを噴霧ホースから取り外す事無く、噴霧ホースをホースガイドから抜く事ができます。

### ホースガイドから噴霧ホースを抜くには



ホースガイドのノズルホルダ部をかわしてホースガイド螺旋部の隙間を通すことで、噴霧ホースをホースガイドから取り外します。

### 注意

噴霧ホースは必ずホースガイド下側から上側へ通してください。上から通しますと噴霧ホースがスムーズに引出せません。

### 3. 取扱および操作のしかた

#### 運転準備・運転・停止

##### 始業点検

- その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。  
始業点検を毎回行うことによって、事故、あるいは故障などを未然に防止することができます。  
非常に大切な点検ですので、必ず実施してください。
- 本機はそのまま付属品を装着するだけで噴霧機としてご使用いただけるようになっています。
- 各部ネジにゆるみがないか点検します。

##### 注意

- ネジがゆるんでいると事故につながります。
- 警告ラベルが本体からはがれた場合は購入して同じ

始業点検を行う際、必ず薬液槽に清水を入れ、運転を行ってください。

##### 薬液の調合

- 使用する薬剤の説明書をよく読み、調合方法、使用上の注意に従ってください。

##### 注意

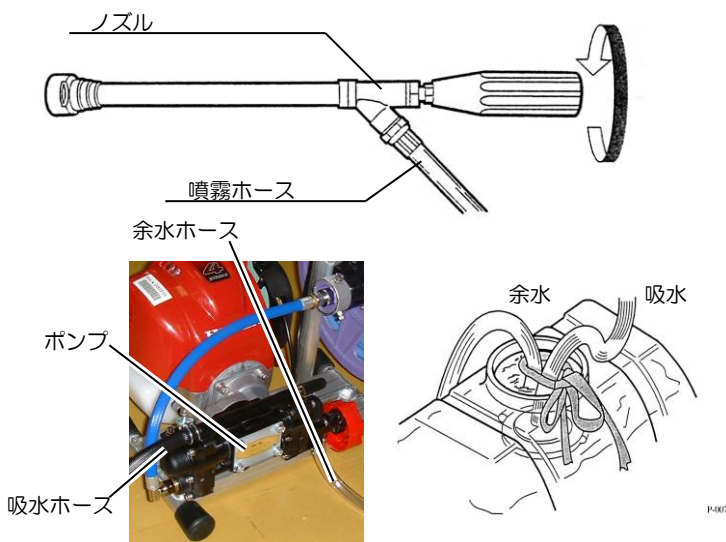
- 水和剤を使用する場合は、決められた倍率に調合し

##### 運転準備

1. 吸水ホース及び余水ホースを本機に、ノズルを噴霧ホースに接続します。(接続部位は8ページの写真でご確認ください。)  
※初回使用時(開梱時)、吸水ホースは製品に取付けた状態になっています。  
ノズルのニギリをいっぱいまで右に回し、ノズルを閉じておきます。
2. 薬液槽に吸水ホース(ストレーナ側)、余水ホースを入れます。
3. 薬液槽に汚れやゴミがないか確かめて水、または薬液を入れます。
4. 吸水ホース、余水ホースをひも等で縛り、薬液槽から運転中に飛び出さないようにしておきます。

##### 注意

- 各ホースに傷や破れがないか、ホースのポンプ側、噴霧ホースのノズル側にパッキンがついているか確認してください。また、金具はしっかり取付けてください。薬液漏れや吸水不良の原因となります。
- 薬液槽、ストレーナにゴミがついてないか確かめます。ゴミがついている場合は水洗いをしてください。吸水不良の原因となります。
- 薬液は良くまぜてから使用します。



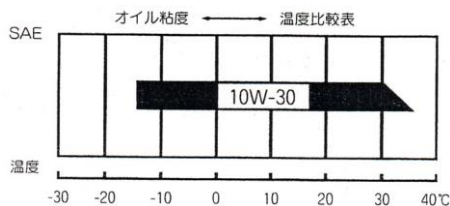
##### 5. エンジンオイルを給油します。

エンジンを水平にし、オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。

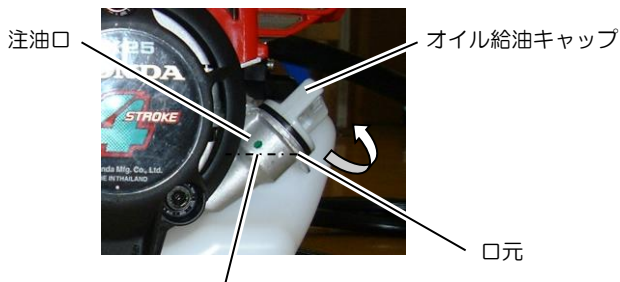
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法はエンジンの取扱説明書を参照してください。)

【推奨オイル】 4サイクルガソリンエンジンオイル SE 級以上  
SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

【オイル容量】 0.08 L







## 注意

- エンジンを連続運転する場合、10時間ごとにエンジンオイルの点検補給を行ってください。補給は容量が小さいため、少しずつ注入してください。
- 給油キャップは漏れないように確実に締付けてください。

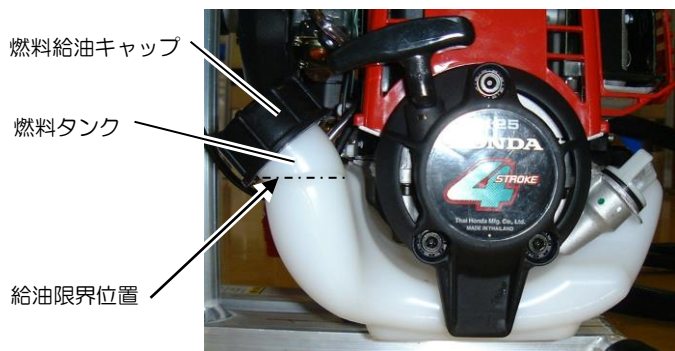
5. 燃料を給油します。

## 注意

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- 給油はエンジンを停止し冷えてから行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- こぼさないよう注意してください。万一こぼれたときは、ウエス等でよく拭きとり、火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は、基準レベル以上入れないでください。燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

燃料タンクの外側より液面の位置を確認し、燃料の量を点検します。少ない場合は平坦な場所で給油限界を越えないように補給してください。



使用ガソリン：自動車用ガソリン

- 燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取り除きます。給油キャップを外し、給油限界位置を越えないように給油します。
- 補給後、給油キャップを完全に締め付けてください。また給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

【タンク容量】 0.55 L

## 注意

ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンは使用しないでください。本機に使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。

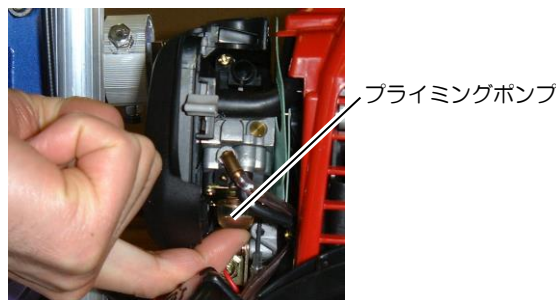
## 運転

## 警告

- 排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所での運転はしないでください。
- マフラー及び排気口付近に障害物や燃えやすいものがあると、発火するおそれがあります。設置の際には十分注意してください。

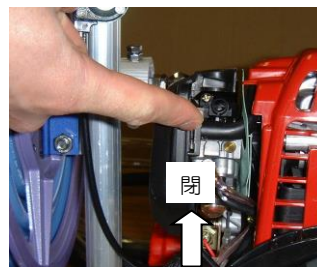
1. プライミング操作を行います。

キャブレターの下面についているプライミングポンプをゆっくり数回押してポンプ内に燃料（自動車用ガソリン）が充満し、タンクに戻るのを確認します。



2. チョークを全閉にします。

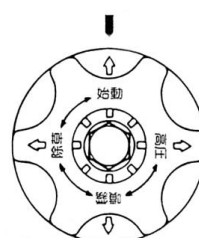
（酷暑時又はエンジンが温まっているときは、半開又は全開とします。）



3. スロットルレバーを中低速位置にします。



4. 調圧弁ハンドルを「始動」の位置にします。



5.エンジンを始動します。

始動ロープを軽く2～3回引いた後、始動ロープを勢よく引いて始動させます。

#### 【始動ロープの引き方】

- ① 始動ロープを右手で確実に握ります。
- ② 左手で本機のハンドルを押えます。
- ③ 始動ロープの抵抗を感じるところまでゆっくり引きます。
- ④ ロープはスタータの出入口とまっすぐになるように引きず。
- ⑤ ロープは全部引ききらないようにします。
- ⑥ ロープは引張ったまま手離さないで確実に元に戻します。

始動ロープ

リコイルスタータ

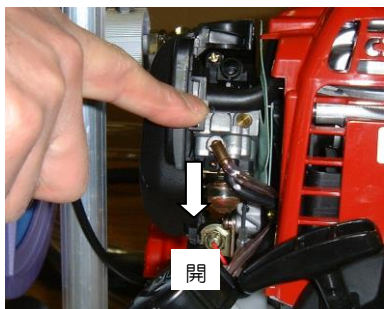


### 注意

繰り返しても始動しない場合は、チョークを全開にしてからロープを引いて始動します。

※ 始動しない場合 15ページ(故障診断とその処置:エンジン)を参照してください。

6.始動後チョークを徐々に戻します。

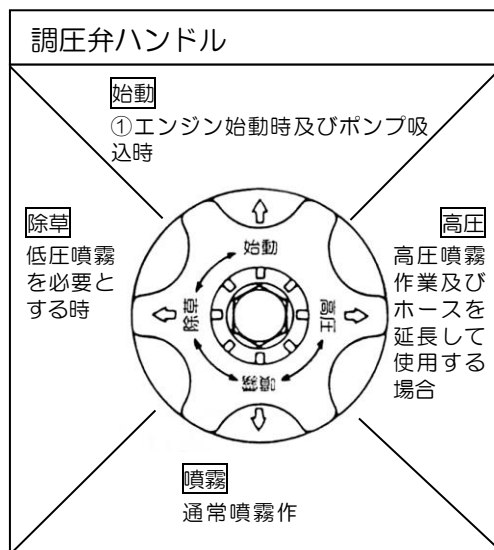


7.調圧弁ハンドルを回して、除草、噴霧、高圧と作業条件にあった圧力の設定をします。

8.霧の状態、機械の異常の有無を確かめたうえ、スロットルレバーを高速位置にします。

### 注意

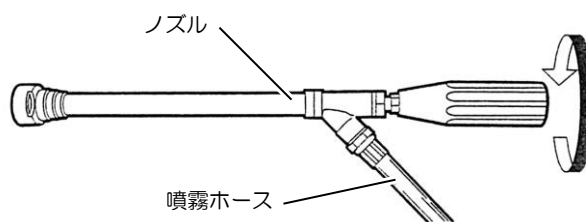
- 調圧弁ハンドル「高圧」の位置でスロットル全開のまま調圧弁ハンドル「噴霧」「除草」としますと、圧力が低くなった分エンジンの回転が高くなりすぎますので、スロットル全開より若干戻した位置で使用してください。
- 空運転は水抜き以外しないでください。ピストンパッキングが損傷します。



9.ノズルの握りを回して、作業に合わせた霧に調節してください。  
(8ページ各部の働き⑤参照)

### 停止

- 1.ノズルのニギリを右に回して締め込んで噴霧を停止します。



- 2.スロットルレバーを低速に戻します。



- 3.調圧弁ハンドルを始動位置に戻します。
- 4.ストップボタンを押してエンジンを停止します。

### 注意

やけど防止のため運転中及び停止直後は、シリンダ、マフラーカバー等の高温部には触らないでください。

## 4. 洗浄・整備・格納について

### 洗浄と整備

#### ⚠ 注意

洗浄・点検及び整備の時は必ず本機を停止してください。

#### 散布作業後

#### ⚠ 警告

空容器の処分は自治体の指示、または薬剤の取扱説明書にしたがってください。

#### 注意

- 本機には水をかけないようにしてください。特に高圧による洗浄液は、直接かけないようにしてください。故障の原因となります。
- 使用後の洗浄を怠りますとポンプ等の接液部が故障し、しいてはエンジン故障に発展する場合があります。必ず下記手順で洗浄してください。

#### 洗浄

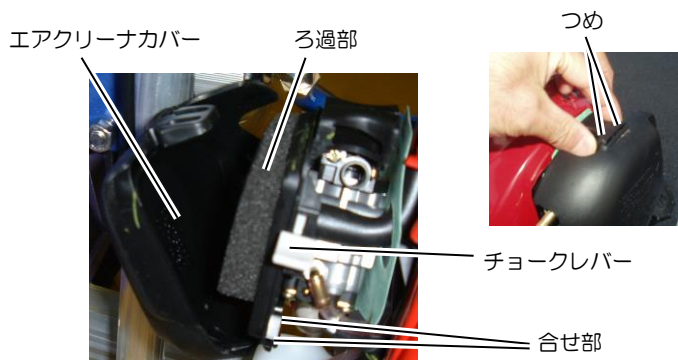
##### 本機の洗浄

1. 薬液槽をきれいに洗浄し、薬液槽に清水をいれ、エンジン（ポンプ）を始動します。
2. ノズルより清水を噴霧させ、ポンプやホース内を洗浄します。ノズルから薬液が出なくなっても清水噴霧を2～3分続けてください。

##### エアクリーナの清掃

エアクリーナの元素が汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良をおこします。元素は時々（3ヶ月毎又は25時間運転毎）清掃し、汚れを落とし、目づまりを防いでください。また、チリやホコリの多いところで使用した場合は10時間毎又は一日一回清掃してください。

1. チョークレバーを上げます。
2. エアクリーナカバーを開け、ろ過部（ウレタン）を取り外します。エアクリーナカバーの開け方は、つめを横方向に押しながら上部を外した後下部の合せ部を支点におこないます。



3. ろ過部を洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い、よく絞ってから乾かします。

4. ろ過部、エアクリーナカバーを取付けます。カバーは、下部2ヶ所の合わせ部を支点にして閉じ、上部のつめを確実に組付けます。

#### ⚠ 警告

- 洗い油は引火しやすいので、火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
- 清掃は換気のよい場所で行ってください。

洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗う

固く絞る



エンジンオイルに浸す

軽く絞る

乾かす



#### 注意

- エアクリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンの寿命を縮める原因になります。
- オイルをつけすぎないように注意してください。

##### エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

#### ⚠ 注意

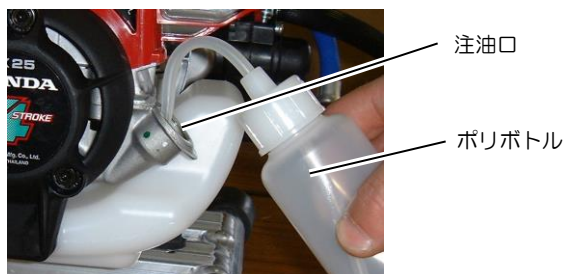
- エンジン停止直後はエンジン本体やオイルが高温になっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。

【交換時期】 … 初回 : 1ヶ月または10時間運転後  
以後 : 6ヶ月または50時間運転後

【推奨オイル】 4サイクルガソリンエンジンオイル SE 級以上 SAE 10W-30 をご使用ください。



1. 燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. オイル給油キャップを外し、市販のポリボトルやスポイトを用いて注油口から抜きます。
3. エンジンを水平にし、注油口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



### 注意

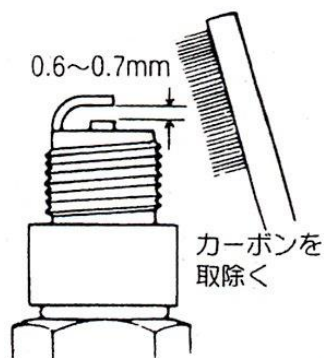
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝等に捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。ゆるいとオイルが漏れることがあります。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に

### 点火プラグの清掃

カーボンを取り除き隙間を 0.6～0.7mm に調節します。

### ！ 注意

- エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に高温になっています。やけどをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

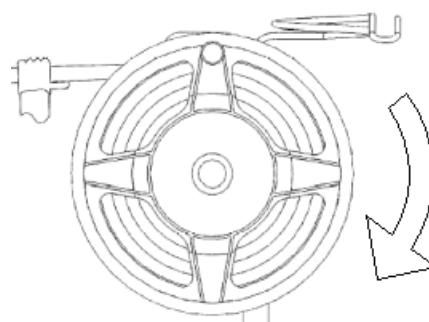
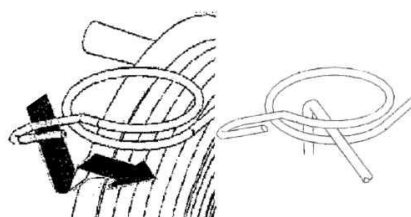


035-17

## 水抜きと格納

1. 各部に水が入ったまま格納しますと、冬期凍結によるポンプ破損、残液の湿気による錆等の問題が発生する恐れがあります。下記の手順で内部の水を抜きます。

- ① ノズル、吸水ホース、余水ホースを本機からはずします。
- ② 噴霧ホースを引出した状態で本機を運転しポンプ内部の水を抜きます。エンジンはスロットルを低速にし、調圧ハンドルを始動位置にし、ストップボタンで停止してください。
- ③ 噴霧ホースをホースガイドからはずし、ホース外周を拭きながら巻き取ります。



### 注意

- 空運転(薬液か清水がポンプにない状態での運転)はポンプの故障につながります。空運転は30秒以内にしてください。
- 損傷個所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗品はすべて、当社指定の純正部品をご使用ください。
- 保管は湿気の少ない場所でチリやゴミが付着しないようにしてください。

2. 燃料タンクの燃料(自動車用ガソリン)を抜き、アイドリングでエンジンが自然に止まるまで運転します。
3. 本機、および付属品の点検を行った後、本機・ノズル・各ホースの外周をきれいにし、直射日光の当たらない湿気の少ない風通しの良い場所へ保管します。
4. シートをかけるときは、本機が乾いてから行います。ぬれていいますと腐食の原因となります。
5. 薬剤を保管庫に戻し、鍵をかけて保管します。農業使用日誌をつけます。
6. うがいをし、保護具を洗浄します。
7. 衣類を脱ぎ、シャワーを浴びます。



## 故障診断とその処置

●ポンプ、エンジンの調子が不良の場合は次の内容が考えられます。

●☆印については最寄の取扱店に調整、修理を依頼してください。

### ポンプ

| 現 象                    | 原 因                                                                                                                                  | 処 置                                                                                                                             |                                      |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 吸水しない。                 | (1) 吸水ホースの接続部のゆるみ。<br>(2) 吸水ストレーナが薬剤でつまる。<br>(3) ピストンパッキンの磨耗。<br>(4) 弁部に異物。                                                          | (1) 充分締付ける。<br>(2) 分解掃除。<br>(3) 新品と交換。<br>(4) 分解掃除。                                                                             | ☆<br>☆<br>☆<br>☆                     |
| 圧力が上がらない。<br>(噴霧状態が悪い) | (1) ピストンパッキンの磨耗。<br>(2) シリンダ内面にキズ。<br>(3) 吐出弁にキズ。<br>(4) 調圧弁座の磨耗。<br>(5) 各弁部に異物。<br>(6) カムハンドルの磨耗。<br>(7) ノズル穴の磨耗。<br>(8) ノズル使用数の過多。 | (1) 新品と交換。<br>(2) 新品と交換。<br>(3) 新品と交換。<br>(4) 新品と交換。<br>(5) 分解掃除。<br>(6) 新品と交換。<br>(7) 新品と交換。<br>(8) ノズル数を少なくするか穴径の小さいノズルを交換する。 | ☆<br>☆<br>☆<br>☆<br>☆<br>☆<br>☆<br>☆ |

### エンジン

| 現 象       | 原 因                                                                 | 処 置                                                        |                            |
|-----------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 始動しない     | ●燃料切れ<br>●燃料フィルタ目づまり<br>●始動操作ミス<br>●点火プラグ不良<br>●マグネット不良<br>●キャブレタ不良 | ●燃料補給<br>●清掃<br>●エンジンの始動の項参照<br>●点検、清掃、交換<br>●交換<br>●点検、清掃 | ☆<br>☆<br>☆<br>☆<br>☆<br>☆ |
| 出力不足      | ●ストットルワイヤ調節不良<br>●エアクリーナエレメント目づまり<br>●排気ポート、マフラにカーボン堆積              | ●調節<br>●清掃<br>●清掃                                          | ☆                          |
| 振動が大きくなる  | ●各部のゆるみ                                                             | ●増締                                                        |                            |
| 排気温が大きくなる | ●マフラ及びマフラカバーのゆるみ                                                    | ●増締                                                        |                            |

## 5. 仕様

| A S 5 1 E M R - 2 0仕様 |                                  |                   |
|-----------------------|----------------------------------|-------------------|
| 寸 機<br>法 体            | 機 高 (mm)                         | 385               |
|                       | 機 幅 (mm)                         | 325               |
|                       | 機 長 (mm)                         | 505               |
| 乾 燥 質 量 (kg)          |                                  | 10                |
| ポ<br>ン<br>プ           | 型 式                              | 水平対向 2 連ユニフロー式    |
|                       | 吸 水 量 (L/min)                    | 7.1               |
|                       | 回 転 数 $\text{min}^{-1}$          | 1825              |
|                       | 圧 力 MPa                          | 1.0:2.5:3.5       |
| エ<br>ン<br>ジ<br>ン      | 型 式                              | GX25              |
|                       | 型 式                              | 強制空冷 4 サイクル       |
|                       | 排 気 量 (mL)                       | 25                |
|                       | 最 大 出 力 ( $\text{kW/min}^{-1}$ ) | 0.72/7000         |
|                       | 燃 料                              | 自動車用ガソリン          |
|                       | 点 火 方 式                          | 電子点火 (トランジスタマグネト) |
|                       | 点 火 プ ラ グ                        | NGK CM5H, CMR5H   |
|                       | 始 動 方 式                          | リコイルスタータ          |
|                       | 燃 料 タ ン ク 容 量 (L)                | 0.55              |
|                       | 潤 滑 油 量 (L)                      | 0.08              |

- 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

## 6. サービスと保証について

### 保証について

保証期間、保証内容は保証書に記載されています。保証書を読んで確認してください。

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。お読みになられた後は大切に保管してください。

製品を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意下さい。

### アフターサービスについて

- 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、すぐに適切な整備をしてください。  
最寄の取扱店にご連絡ください。
- 連絡していただく内容  
○機種名 ○製造番号 ○故障内容  
なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。
- 本製品を安全にご使用頂くには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、最寄の取扱店に、点検整備をお願いしてください。この時の整備は有料となります。

### 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後 9 年です。但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

# Memo

販売元 **アーランドサカモト（株）**

〒955-8501 新潟県三条市大字上須頃 445 番地 TEL0256(33)6021（代表）

製造元  **MARUYAMA**

株 式 会 社 丸 山 製 作 所

本社 〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-4-15 TEL03(3252)2281

＜丸山サポートセンター＞

無料通話 0120-898-114